

Beyond Borders 展示資料一覧 テーマ「カルト」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
1	1Q84	Haruki Murakami ; translated by Jay Rubin and Philip Gabriel	Vintage Books	2013				○	村上春樹の三部作からなるベストセラーです。物語は1984年の東京が舞台です。実在の宗教団体をモデルとし、それを軸に二人の主人公の物語は進んでいきます。作中に登場する音楽・文学作品など村上ワールドを体感してください。
	1Q84	Haruki Murakami ; translated by Jay Rubin and Philip Gabriel	Vintage Books	2012		○			村上春樹の三部作からなるベストセラーです。物語は1984年の東京が舞台です。実在の宗教団体をモデルとし、それを軸に二人の主人公の物語は進んでいきます。作中に登場する音楽・文学作品など村上ワールドを体感してください。
	1Q84	村上春樹著	新潮社	2012.4		○			村上春樹の三部作からなるベストセラーです。物語は1984年の東京が舞台です。実在の宗教団体をモデルとし、それを軸に二人の主人公の物語は進んでいきます。作中に登場する音楽・文学作品など村上ワールドを体感してください。
2	Q&A宗教トラブル110番	山口広, 滝本太郎, 紀藤正樹著	民事法研究会	2015.3	○		○		タイトルは「宗教トラブル」となっていますが、自己啓発や占い師などの問題についても、専門の弁護士が分かりやすく解説しています。誰かに相談したくてもできなかった問題の解決方法や、あなたがこれまで知らなかった出来事も知ることができるかもしれません。
3	オウム真理教事件とは何だったのか? : 麻原彰晃の正体と封印された闇社会	一橋文哉著	PHP研究所	2018.8			○		教団と裏社会との繋がりや、海外とのやり取りなどの背景も書かれているので、組織がさまざまな思惑で複雑に絡み合っている実態が見える。カルト宗教を理解するためには、なんとなくややこしそうだという漠然とした感覚ではなく、広い視野で捉えないと全体像が見えないことがわかる。
4	科学者はなぜ神を信じるのか : コペルニクスからホーキングまで	三田一郎著	講談社	2018.6		○			科学は神を否定するものなのか? 歴史上、科学的な主張は宗教の教義と相容れないケースでは手ひどい弾圧を受け、否定されてきた。しかし、科学者たちは神を信じ、そして科学を探究してきた。本書は一見矛盾するような両者の関係について、様々な知見を教えてください。
5	カルトからの回復 : 心のレジリエンス	桜井義秀編著	北海道大学出版会	2015.3	○			○	親密な仲間から離れることは、大きな苦痛を伴います。それが、自分を傷つける相手だとしてもです。本書ではカルト集団への入会・回心・脱退、そして回復までのプロセスを、事例なども併せて紹介し、心のしなやかな強さ、立ち直りについて紹介します。

Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「カルト」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
6	カルト資本主義	斎藤貴男著	筑摩書房	2019.3	○	○		○	なぜ、大衆はオカルティズムに魅かれるのか、終末思想を説く人々の本当の目的は何か、誰が誰を支配しようとしているのか…。オカルティズムと日本の企業社会との関係を歴史的な考察と取材をもとに浮き彫りにしたノンフィクション作品です。
7	「カルト宗教」取材したらこうだった	藤倉善郎著	宝島社	2012.8				○	カルト宗教の報道は多いのですが、実際に彼らの教義や生活まで密着して紹介するマスコミは、なかなかいないのではないのでしょうか？カルトの中で何が行われているのかを知ってこそ、問題点を理解できると思います。
8	カルトの子：心を盗まれた家族	米本和広著	論創社	2021.3	○				ごく普通の家庭にカルト宗教が入り込んだとき、子どもはどんな影響を受けるのか。カルトの子に限らず、親権と子どもの人権、子どもの健全な世界観を育成するとはどういうことか…考えさせられる1冊です。
9	カルト問題と公共性 ：裁判・メディア・宗教研究はどう論じたか	櫻井義秀著	北海道大学出版会	2014.2	○			○	現代の日本における「カルト問題」とは、そしてタイトルで並列に並ぶ「公共性」とは。カルト問題を調査研究してきた著者による1冊です。
10	「カルト」を問い直す ：信教の自由というリスク	櫻井義秀著	中央公論新社	2006.1	○	○		○	昨今のメディア報道で、「カルト」という言葉を耳にしたことがあると思います。本書では、地域社会や大学という身近な場所での事例にも触れられており、「カルト」とは何かについて知り、考えるきっかけになるのではないのでしょうか。
11	現代社会を宗教文化で読み解く ：比較と歴史からの接近	櫻井義秀, 平藤喜久子編著	ミネルヴァ書房	2022.3	○				日本では、ありがたいと思えば拝み、よいと思えば取り入れる風習があります。実は、世の中の様々な事柄は宗教文化と関わっています。その具体的な事例をもとに宗教文化のもつ課題から豊かさまでを読み解くことができる1冊です。
12	現代宗教意識論	大澤真幸著	弘文堂	2010.11	○				本書では宗教を、政治や経済や教育といった領域を横断し、包括する現象として考え、現代社会における宗教を、近年の社会現象や出来事（事件）などからも論じています。

Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「カルト」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
13	現代宗教とスピリチュアル・マーケット	山中弘編	弘文堂	2020.8	○		○	○	パワースポットや聖地巡礼など、宗教は実は昔から経済活動に大きく関わってきました。市場、特にスピリチュアル・マーケットから、現代宗教のありようを考えてみませんか。
14	さらば、神よ：科学こそが道を作る	リチャード・ドーキンス著 ；大田直子訳	早川書房	2020.7		○			著名な生物学者による、脱宗教と科学的思考の書です。西欧諸国において、宗教がどれほど人々の自発的に考える機会と能力を奪ってきたかを説明し、自分で考えることの重要性を説いています。デマや誤った情報に踊らされないためにも、科学的思考を身につけましょう。
15	島原の乱 ：キリシタン信仰と武装蜂起	神田千里著	講談社	2018.8	○			○	カリスマ的指導者がいる宗教の信者が団結して行動した結果、それが武力行使になることはいつの時代もありました。本書は、キリシタンの天草四郎が率いた島原の乱を論じています。
16	宗教社会学：神、それは社会である	奥井智之著	東京大学出版会	2021.5	○		○	○	「社会学」から「宗教」を考えてみると、政治・経済・学問・芸術・スポーツなど、わたしたちの生活のなかには「宗教」や「神」が、意外と身近に根付いていることに気が付くかもしれません。
17	宗教と科学の接点	河合隼雄著	岩波書店	1986.5	○				近代の科学技術の発展の裏で取り残され、むしろ肥大化した「こころ」の問題が、現代社会に暗い影を落としています。本書は、そのような「こころ」の問題を、科学と宗教の接点の位置にある心理療法の専門家が考察した名著です。
18	宗教と子どもたち	中川明編	明石書店	2001.8	○				子どもと宗教というと、一見奇妙な組み合わせに見えるかもしれませんが。しかし、子どももまた社会に生きる一員として、自主的に、時には親などによって宗教に触れる場面も多いのです。子どもの成長にとって、宗教がどのような意味を持つのか考えさせられる1冊です。
19	宗教と社会の戦後史	堀江宗正編	東京大学出版会	2019.4	○				政教分離という言葉を知っている方は多いでしょう。しかし、現在の日本の宗教と社会、国家がどのような状況にあるのかを、正確に知っているのでしょうか。戦後から現代までの宗教と社会の関係について、本書で学んでみましょう。

Beyond Borders 展示資料一覧 テーマ「カルト」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
20	宗教と社会のフロンティア : 宗教社会学からみる現代日本	高橋典史, 塚田穂高, 岡本亮輔編著	勁草書房	2012.8	○		○	○	「現代日本の『宗教と社会』について学ぶことは、そのまま我々の生きている社会全体についての理解を深めることに繋がっていく」というコンセプトで、初めて学問的に「宗教」にふれる大学生にむけて、「若手」研究者だけで執筆した宗教社会学の教科書です。
21	宗教と精神医学のあいだ	大宮司信著	日本評論社	2022.3				○	人の心を救うのは、精神医学か、宗教か。精神医学は近代に入ってから生まれた、比較的新しい学問ですが、人々の苦悩は昔から存在していました。医学が発展した現代における両者の役割、そしてかわりについてまとめた論集です。
22	宗教と認知行動的セルフモニタリング : 青年期の適応を通じて	山崎洋史著	学文社	2022.2				○	本書は、日本人の宗教観を心理学からアプローチしています。日本人は無宗教といわれる一方で、例えば年末年始の初詣など個人的な行動には宗教の要素を取り入れています。普段の生活にも、宗教的要素がそれとは気付かずに入っているのかもしれない。
23	新宗教を問う : 近代日本人と救いの信仰	島藺進著	筑摩書房	2020.11	○		○	○	本書は、著者が取り組んできた新宗教研究の概説書です。19世紀初め頃から日本ではいくつもの新宗教が誕生し、今もその活動は続いています。新宗教がどのようなものかを知るきっかけになる本です。
24	スウェーデンボルグ : 科学から神秘世界へ	高橋和夫著	講談社	2021.5		○			著者は、生涯の前半は科学者として、その後は様々な神秘体験をもとに神秘主義神学者として生きた人物で、その考え方はヨーロッパを中心に多くの思想家や作家に影響を与えました。日本での知名度はそれほど高くありませんが、これを機にぜひ知ってください。
25	洗脳大全 : パブロフからソーシャルメディアまで	ジョエル・ディムズディール著 ; 松田和也訳	青土社	2022.2				○	有名なパブロフの実験から、ソーシャルメディアにおける最新の脳科学を駆使したより巧妙で無意識に作用する今日のマインド・コントロールまで、洗脳の歴史、手法とその実態を知ることができます。
26	大学生のリスク・マネジメント	吉川肇子, 杉浦淳吉, 西田公昭編	ナカニシヤ出版	2013.10			○	○	大学生活を社会に出る手前の段階だと考える方もいるかもしれませんが。しかし、アルバイトや賃貸契約など、社会的な責任を負う場面も増えるもの。消費者問題やカルトなど大きなトラブルに巻き込まれないよう、大学生活にどんなリスクがあるか、知っておきましょう。

Beyond Borders 展示資料一覧 テーマ「カルト」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
27	大学のカルト対策	櫻井義秀, 大畑昇編著	北海道大学出版会	2012.12	○			○	大学は、新しい友達やサークルなど出会いの機会がたくさんあり、豊かな交友の輪を広げていきたいものです。しかし、中には悪意を持って接触してくる人もいます。大学が学生のみなさんを守るために様々なサポートを用意していることを、知ることができる1冊です。
28	なぜ、人は操られ支配されるのか	西田公昭著	さくら舎	2019.9				○	マインド・コントロールと聞けば、「カルト」団体など特殊な世界が思い浮かぶかもしれませんが。しかし、今や詐欺や宗教などだけではなく、家庭、学校、SNSでも他者による支配、操りの手法が横行しています。支配する相手側のテクニックと対処法を知り、身を守りましょう。
29	なぜ人はカルトに惹かれるのか : 脱会支援の現場から	瓜生崇著	法蔵館	2020.5	○	○		○	信者に共通する「正しさ依存」の心理に注目し、カルトに入る人と入らない人との間に違いはあるのか、どうすればカルトから脱会できるのかなど、入信から脱会までの著者自身の体験を糧に信者と向き合って書かれた1冊です。
30	非科学主義信仰 : 揺れるアメリカ社会の現場から	及川順著	集英社	2022.10		○			何らかの主義主張をする際、実験データなどの一部分だけを切り取って、自分たちに都合がよいように事実を捻じ曲げることは、許されることではありません。このような「非科学主義信仰」が広がっているアメリカからのレポートです。
31	東アジア宗教のかたち : 比較宗教社会学への招待	櫻井義秀著	法蔵館	2022.6	○			○	「宗派」という言葉があるように、同じ宗教を信仰しているにもかかわらず、地域や文化性また歴史的な経験により、様々な違いが生じます。日本だけでなく東アジアや東南アジア各地の宗教や宗教文化の「かたち」を知ることで、見えてくるものがあるかもしれません。
32	ビッグ・ゴッド : 変容する宗教と協力・対立の心理学	アラ・ノレンザヤン著	誠信書房	2022.4	○			○	本書は、社会心理学者が神や宗教についてまとめたものです。信仰は、バラバラであった個人を集団としてまとめ、時に対立させてきました。本書はその軌跡を、心理学・文化進化論・宗教認知科学の知見から明らかにしています。
33	マインド・コントロール	岡田尊司著	文藝春秋	2016.4				○	マインド・コントロールは、昔から催眠や洗脳という言葉で行われてきました。国や組織だけではなく、家庭においても行われているマインド・コントロールの歴史を概観し、その原理を解き明かします。

Beyond Borders展示資料一覧 テーマ「カルト」

※○が入っている館が展示館です。平井…平井嘉一郎記念図書館、MDC…メディアセンター、MDL…メディアライブラリー、OIC…OICライブラリー

	書名	著者	出版社	出版年	展示館				推薦コメント
					平井	MDC	MDL	OIC	
34	マインド・コントロール：決定版： だましの手口を一挙公開 ：被害者救済の第一人者がその対策 を徹底解説!	紀藤正樹	アスコム	2017.3		○			何か気になるもの、惹かれるものが見つかることは、素敵なことです。しかし、いつの間にか、心が、思考が、それに囚われてしまうと危険です。マインド・コントロールは誰にでも起こり得ること。自分への注意喚起として読んでみましょう。
35	ルポ 人は科学が苦手 ：アメリカ「科学不信」の現場から	三井誠著	光文社	2019.5		○			「アメリカでは進化論を信じる人はあまり多くない」といった話を聞いたことはないでしょうか？ 本書では進化論や地球温暖化のほか、フラットアース（地球が平らと信じる人）、並行宇宙などといった気になる言葉も取り上げながら、アメリカにおける科学と宗教、政治について紹介しています。